

氏名	土屋 政雄
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 3813 号
学位授与の日付	平成 21 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	LIFETIME COMORBIDITIES BETWEEN PHOBIC DISORDERS AND MAJOR DEPRESSION IN JAPAN: RESULTS FROM THE WORLD MENTAL HEALTH JAPAN 2002-2004 SURVEY (恐怖症と大うつ病の生涯における合併—世界精神保健日本 調査2002-2004より—)
論文審査委員	教授 黒田 重利 教授 阿部 康二 准教授 吉永 治美

学位論文内容の要旨

本研究は、世界精神保健日本調査(WMHJ)2002-2004 のデータを用いて、日本の地域住民における恐怖症と大うつ病の関連について検討した。20 歳以上の地域住民 2,436 名に対し、WHO 統合国際診断面接 3.0 版を用いて面接を行った(反応率、58.4%)。Cox 比例ハザードモデルを用いて、DSM-IV の特定の恐怖、広場恐怖、社会恐怖の発症を説明変数、性、出生コホート、他の不安障害、教育歴、婚姻状態を共変量におき、大うつ病の発症を予測した。社会恐怖は、性、出生コホート、他の不安障害を調整した上で、後の大うつ病発症に強い関連が見られた(hazard ratio[HR] = 4.1 [95%CI: 2.0-8.7])。広場恐怖および特定の恐怖と大うつ病との関連は、これらの変数を調整した後には有意な関連を示さなかった。社会恐怖は、わが国において後の大うつ病発症に関して強い予測因であることが明らかになった。

論文審査結果の要旨

精神科診療において恐怖症とうつ病の合併は多く、両者の発症背景に共通の要因を想定する研究も欧米ではいくつかなされてきた。本研究は、西日本地域での地域住民を対象に、両者の関連を研究したものである。解析対象は 2, 436 人で構造化面接にて WHO 統合国際診断面接法で、恐怖症の診断をし、後(のち)の大うつ病の発症を予測した。その結果、社会恐怖は諸条件を調整した上で、後の大うつ病発症に強い関連があった。一方、広場恐怖と特定の恐怖とうつ病との有意な関連はなかった。

この結果は、我が国では、欧米に比較して、社会恐怖の発症がうつ病の発症により強い危険因子となる可能性があるという指摘であり、社会恐怖を診たときは、うつ病の発症に注意を払う必要があるという、重要な知見を得ており価値ある業績である。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。